

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-221483

(43)公開日 平成5年(1993)8月31日

(51)Int.Cl.⁴
B 65 D 90/00

識別記号 庁内整理番号
E 7031-3E

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全 4 頁)

(21)出願番号 特願平4-67899

(22)出願日 平成4年(1992)2月7日

(71)出願人 592058902

森川 高明

岡山県倉敷市水江1549番地

(72)発明者 森川 ▲高▼明

岡山県倉敷市水江1549番地

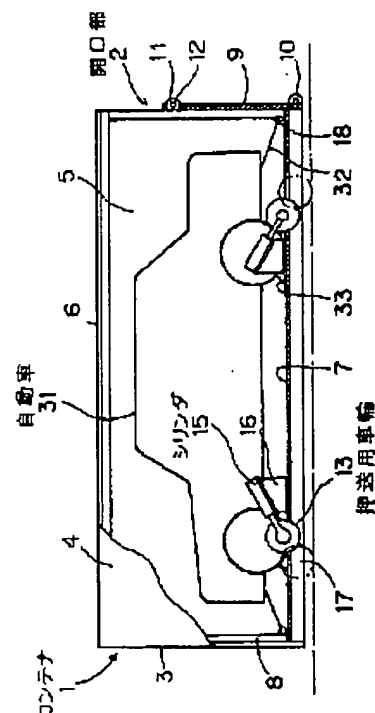
(74)代理人 弁理士 山上 正晴

(54)【発明の名称】 自動車輸送用コンテナ

(57)【要約】

【目的】 コンテナを用いて自動車、とくに小型の乗用車をいちどに多数台搬送できるようにする。

【構成】 コンテナ1に、自動車31を乗り入れるための開口部2と、内部から下方へ押し出されて接地する押送用車輪13群と、押送用車輪13群を出し入れするシリンダ15などの駆動手段とを設ける。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 自動車を乗り入れるための開口部を有し、内部から下方へ押し出されて接地する押送用車輪群と、押送用車輪群を出し入れする駆動手段とを具備する自動車輸送用コンテナ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、完成自動車、とくに小型の乗用車を1台ずつ収容して、いちどに多数台を輸送できるようにしたコンテナに関する。

【0002】

【従来の技術】普通いちどに複数台の小型の自動車を陸上輸送する手段として、キャリアカーが用いられている。しかしキャリアカーへの積み込み、積み降ろしは面倒であり、しかも搬送できる台数には限りがある。又、自動車を鉄道輸送するためには、貨車に積み込んだり、積み降ろす有効な手段が未だに解決されていない。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】この発明が解決しようとする課題は、とくに小型の自動車の積み込み、積み降ろしが容易で、しかもトラック輸送や鉄道輸送で、多数台をいちどに搬送できるようにすることにある。

【0004】

【課題を解決するための手段】この発明の自動車輸送用のコンテナの特徴は、自動車を乗り入れるための開口部を有し、内部から下方へ押し出されて接地する押送用車輪群と、押送用車輪群を出し入れする駆動手段とを具備する点にある。

【0005】

【実施例】図1ないし図4に於いて、1は軽乗用車ないし小型乗用車輸送用コンテナで、後側面に自動車乗り入れ用の開口部2が設けられ、前側面3、左側面4、右側面5は閉塞されており、天井6及び床7が設けられている。このコンテナ1は、自動車を収容して搬送するためフレーム8で補強されている。

【0006】9はあおりであって、ヒンジ10によって下方へ開くようになっており、開いたときには自動車31の乗り入れの際、踏台に利用できるようにしてある。そして閉じたときには、フレーム8の後部立ち上がり部分の突起11を、あおり9に設けた図示しない穴へさし込み、係止ピン12で固定する。あおり9に替えて、開口部2の全面を開塞する扉を設けることもでき、又開口したままでもよい。

【0007】13は前後左右に配設された押送用車輪であって、図5、図6で詳細に示すように、二股支持具14の先端部に枢着されている。15は押送用車輪13の駆動手段である油圧又はエヤシリンダで、床7上に固定したブラケット16に固定され、ロッド端には支持具14の後端部が固定されている。シリンダ15の動力源は、トラックの動力源を利用するとよい。図示しない

が、トラックの油圧管などの接続口はコンテナ1の下部の適所に設けておく。

【0008】この押送用車輪13は、コンテナ1を押すときにはコンテナ1の底面から出て接地し、コンテナ1の搬送時には引っ込んで接地せず、しかも自動車31を収容して狭くなったコンテナ1内での、自動車31の係留作業にじゃまにならないことが肝要である。そこで実施例では、シリンダ15は斜めに設けてある。勿論シリンダ15を垂直に設けてもよい。又シリンダ15に替えて、ジャッキ等を利用することもできる。17は押送用車輪13の収容穴で、床7に開口されている。18は床の四隅に設けた係留用のワイヤ止めである。

【0009】図2及び図4で示す19は脱出用扉で、自動車31を収容作業を終えた作業員が開いてコンテナ1から脱出する。この脱出用扉19は左右側面4、5に設けられているが、左ハンドル、右ハンドル専用のものであれば、左右どちらかの側面に設けてもよい。又20は作業員脱出用のてすりで、2段以上にコンテナ1を積み上げたとき、作業員が手や足をかけて昇降するものである。なおてすり20の一部又は前部を溝や凹みに替えてもよい。21はフォークリフトのフォーク挿入口である。

【0010】なお自動車31の車輪などに干渉しないときには、前後の押送用車輪13の左右を1本の車軸で枢着してもよい。この場合、収容口17は横長に形成されることになる。

【0011】

【作用】あおり9を降ろし、押送用車輪13を接地させた状態のコンテナ1へ、作業員が乗車したまま自動車31を乗り入れ、ワイヤ止め18とシャーシとをワイヤ32で固定し、さらに図1、図4のように車止め33を車輪にかましておく。作業員は扉19から脱出し、あおり9を外から上げて係止ピンで固定したのち、例えば図7のようにコンテナ1を押送し、トラック34へ積み込む。積み込み後、シリンダ15を作動させて押送用車輪13を引き上げる。

【0012】トラック34へ複数段のコンテナ1を積み込むときには、2段めからのコンテナ1は、フォークリフトを用いる。トラックヤードでコンテナ1を荷役する場合には、トラックヤードの適所にシリンダ15を作動させる油圧源を設けておけば便利である。

【0013】

【発明の効果】いちどに多数台の完成自動車を、トラックや鉄道を用いてコンテナ輸送できるうえ、荷役が能率的になる。

【0014】又転居などでは、家具などとともに自動車を1台のトラックで搬送できるので便利である。

【図面の簡単な説明】

【図1】自動車を積み込んだ状態を示すため左側面を除いた側面図である。

3

4

【図2】自動車を積み込んだ状態を示すため天井を除いた平面図である。

【図7】自動車を積み込んだコンテナをトラックへ積み込む状態を示す説明図である。

【図3】自動車を積み込んだ状態の背面図である。

【符合の説明】

【図4】自動車を積み込んだコンテナを押送するときの一部欠截側面図である。

1 コンテナ

2 開口部

【図5】押送用車輪とシリンダとの取付状態を示す側面図である。

13 押送用車輪

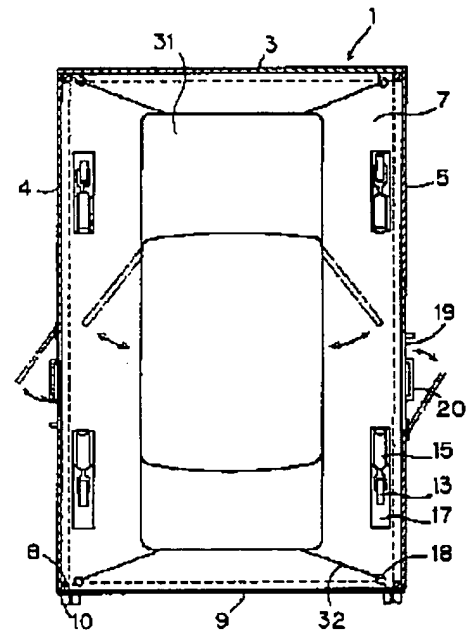
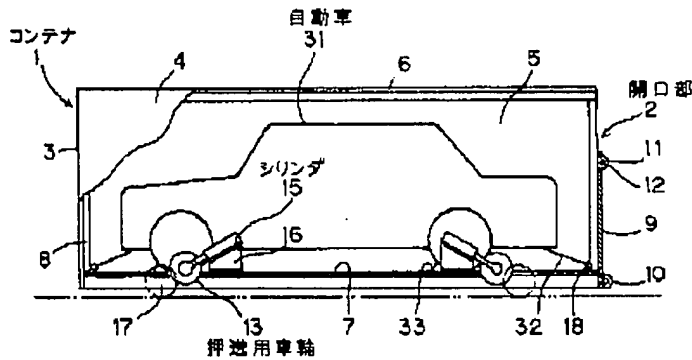
15 シリンダ

【図6】図5のA視線図である。

31 自動車

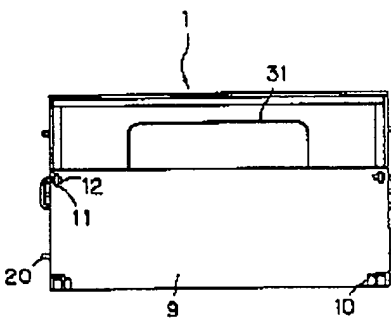
【図1】

【図2】



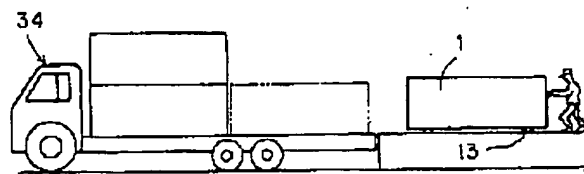
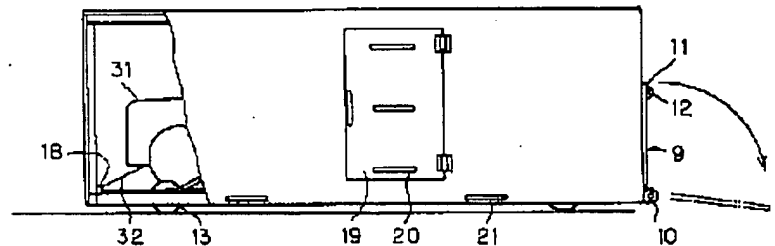
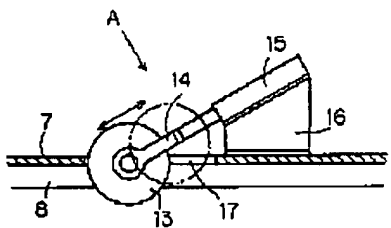
【図3】

【図4】



【図5】

【図7】



(4)

特開平5-221483

【図6】

